# 献　辞

有江大介教授は，平成 28 年 3 月末日をもって横浜国立大学を定年退職されました．ここに「エコノミア」第 67 巻第 1・2 号を先生に捧げ，20 年以上の長きにわたる経済学部および横浜経済学会へのご貢献に対する感謝の気持ちを表したいと思います．

有江先生は，昭和 52 年 3 月東京大学経済学部をご卒業され，昭和 57 年 6 月に東京大学大学院経済学研究科第 2 種博士課程を単位取得退学後，日本学術振興会奨励研究員を経て，昭和 60 年 4 月 1 日に日本福祉大学経済学部助教授に就任されました．平成 5 年 6 月に博士（経済学）を中央大学で取得され，平成 6 年 4 月に横浜国立大学経済学部に助教授として着任され，平成 7 年 4 月には教授に昇任されました．その後の配置換えによる国際社会科学研究科教授，大学院国際社会科学 研究院教授としての期間も含め，20 余年にわたり社会科学概論，現代社会科学，社会科学方法論，Japanese Culture and Society などの講義，演習を通じ，経済学部，大学院の教育，さらには横浜国立大学全体の教養教育に取り組まれてきました．

教育面において特筆すべきこととして，有江先生の大学全体，経済学部の国際展開への貢献があげられます．有江先生は，世界銀行・国税庁による Public Policy and Taxation プログラム，インドネシア政府との IGS，ILP プログラムの立ち上げと展開，さらに国際社会科学研究科の改組に伴って設置された英語プログラムの創設において常に主導的な役割を果たされました．また，平成 22，23 年度に留学生センター長を務められ，全学の国際展開にも貢献されました．大学運営面で付記しますと，有江先生は情報科学にも造詣が深く，総合情報処理センター長も務めておられます．

研究面においては，18 世紀スコットランド思想を主たるフィールドとして，西欧近代社会科学史を研究され，古典古代のアリストテレスから現代のジョン・ロールズに至る広範な正義論を独自の人間観のもとに考察する『労働と正義』を 1992 年に刊行されました．その後，功利主義研究と並んで，近代的な社会科学の成立過程にあって自然神学の果たした意味を掘り下げる研究を進められました．社会哲学および人間観の考察において交換的正義や利己心の固有の意義を重視する有江先生の考察は，経済思想史をめぐる学 界において強いメッセージ性を持った問題提起をなすものでした．有江先生は，数多くの科学研究費他の研究資金を獲得され，それによって研究活動の国際化にも大きな貢献をされました．Ｊ・Ｓ・ミル生誕 200 年記念国際シンポジウム（2006 年），第 13 回 International Society for Utilitarian Studies（2014 年 ) を横浜国立大学において開催し，研究の進展とともに，横浜国立大学の世界的な知名度の向上にも大きく貢献されました．学会活動では，国際功利主義学会の committee member，日本ピューリタニズム学会の会長，事務局長，経済学史学会の幹事等数多くの職務も歴任されています．

長年にわたる経済学部の教育研究や大学運営への有江先生のご貢献は，このようにきわめて大きなものがありました．改めて感謝の念を深めるとともに，先生が新たな場で一層のご活躍をなさることを心からご祈念申し上げます．

平成 29 年 3 月

横浜経済学会長（横浜国立大学経済学部長）
中村　靖